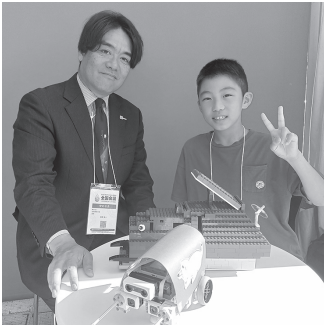


若年層からの問い合わせに対応

日やく

日やくは、ホームページ内に「お問い合わせ」ページを開設しており、広く地域や社会に貢献するという観点から一般企業だけでなく、児童や学生などの若年層からの問い合わせにも丁寧に対応している。2025年度には約40件の問い合わせがあり、そのうち小学生と高校生からそれぞれ1件の問い合わせがあった。

小学生からの問い合わせは、広島県廿日市市在住の仮谷健太郎さんから、地下水を探すモグラ型ロボッ



高橋部長(左)と仮谷さん(右)
(写真手前はモグラ型ロボット「モグラット」)

トの開発に関する内容だった。仮谷さんは、地中を掘り進みながら地下水を見つけるロボットのアイデアで、2025年8月に開催された「WRO2025 JAPAN」の全国大会に出場する権利を得ており、さらなる開発のため同社に問い合わせを行った。これに対し、同社技術開発

本部の高橋直人・部長らがオンラインで情報交換を行い、地下水や地下探査に関する技術的なアドバイスをを行った。その結果、国際大会への出場権の獲得には至らなかったものの、全国大会では高い評価を得ることができたという。

高校生からの問い合わせは、京都府の東山高等学校ロボット研究会の伊藤光軌さんで、国際的なロボットコンテスト「FIRST LEGO League」に関する内容だった。

この大会のテーマは、「掘り出す」「発掘する」などの意味がある「UNEARTEHD」で、伊藤さんらは「地

中に関する、世の中でまだ広く利用されていない技術の普及」について検討を進めていた。

同社技術開発本部では、自社で取り組んでいる地下に関する技術を紹介し、アドバイスを行った。その結果、研究会では地形図や古地図、地質図などのさまざまな地図をウェブ上で並べて表示し、比較しながら確認できるサイトを立ち上げ、東海大会で総合第3位となり全国大会へ出場。全国大会では36校中16位の成績を収めた。

同社では「今回のような取り組みを通じて、将来、若い世代が新しい技術の研究開発に携わることを期待している」とコメントしている。